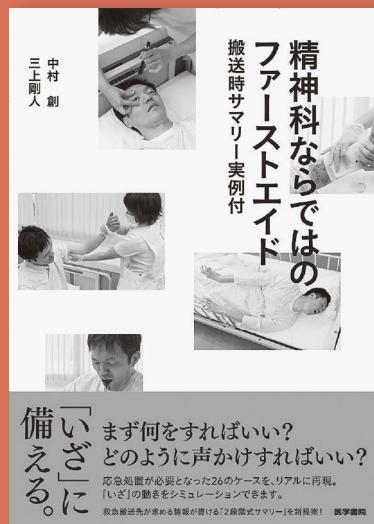


書評

精神科ならではの
ファーストエイド

搬送時サマリー実例付



- 著 中村創／三上剛人
- 定価 2400 円＋税
- 発行 医学書院

評者

浜松医療センター看護部 看護長
救急看護認定看護師
笠原真弓

緊急場面で取るべき行動が
明快に分かる 1 冊

看護師として忘れられない経験

看護師になって3年目、救命救急センターのスタッフだった私は、精神疾患を持つ患者Aさんとの関わりで今も忘れられない経験をしました。Aさんは処方されていた向精神薬や睡眠導入剤を多量に服用して救急搬送になり、急性薬物中毒の診断で救命救急センターに入院になりました。

私は入院時からAさんを担当しました。Aさんは「死にたい」と泣きながら言い続け、目を離すことができない状態でした。看護師経験が浅かったこともあり、私はAさんにどのように話しかければよいか分からず、安全確保のために病室内にあった物を片付けることくらいしかできませんでした。

そしてAさんが眠っていることを確認し、その間に他の業務を行うために病室から離れ、しばらくしてAさんの部屋の前を通ったその時です。病室の窓から外に出ようとするAさんの姿を発見しました。私は叫びながらAさんのもとへ走り、Aさんの腰を持って外へ出ないように必死に押さえて応援を呼びました。

飛び降り寸前のAさんの姿は今でも脳裏に焼きつき、恐怖がよみがえります。結局、精神科病棟を持たない当院では対応できないと判断され、Aさんは精神科病院へと転院していきました。私がAさんを1人にしたことこうした結果になってしまったと、今でも思っています。

以来私は、精神看護について書籍などで学ぶ心がけてきました。しかしこれまで、実際の緊急場면을イメージでき、現場での問題解決につながる書籍には出会いませんでした。こうしたこともあり、精神疾患を持つ患者さんへの関わりは、“何が分からないのかが分からな

い”という不安な感覚のまま、根拠よりも経験を基に続けてきたように思います。スタッフに精神疾患を持つ患者さんへの対応について教育する際も、自信を持ってできたとは言えないように思います。

一般急性期病院でも活用できる

そのような中、本書を手にとって内容を見た時、あまりにリアルな写真とその点数の豊富さに驚き、文章より先に入ってしまった。

本文では、想定される場面や急変場面でまず何をすべきなのか、次にどのように行動すればよいのかが分かりやすく書かれています。特に、代表的な緊急場面において看護師が取るべき行動が、「とっさの声かけ」「望ましい態度」「避けるべき言動」の3つのポイントで明快にまとめられており、本書は「現場で活用できる!」と思いました。

併せて、精神科病院と一般急性期病院間で活用できる「搬送時サマリー」のフォーマットが付いており、その書き方が解説されています。当院は精神科病棟を持たないため、治療目的で患者さんが精神科病院に転院となるケースがあります。その際のサマリーにどのような内容を記述すれば双方の病院にとってよいのかが分かり、参考になりました。

本書は、精神疾患を持つ患者さんに関わる機会がある一般急性期病院の看護師にとっても必読の1冊です。「精神看護には自信がない」「不安がある」と感じている人にこそ手にとっていただきたいです。